

令和3年度

昭島市立成隣小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	○すすんで学ぶ子 ○心豊かな子 ○たくましい子	ビジョン	【目指す学校像】	笑顔と信頼あふれる魅力あるSEIRIN小学校 (Smile:笑顔,Energy:元気,Idea:発想,Reliance:信頼,Improve:改善,New:新鮮・進取)
			【目指す児童・生徒像】	けやきのき【け:健康な子 や:優しい子 き:勤勉な子 の:伸びゆく子 き:煌めく子】
			【目指す教師像】	○当たり前のことを当たり前に行き生き生きと仕事ができる教師 ○個々の個性や専門性を発揮し、組織的に教育活動を展開できる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	主体的・意欲的に学び、基礎的な知識及び技能を確実に習得させる。	個々の学習状況を正しく把握し、読む・書く・計算する力を身に付けさせる。	週3回の朝学習、週2回の個別指導タイムを実施する。	4 全12学級でどちらも実施した。 3 11学級でどちらも実施した。 2 8学級以上でどちらも実施した。 1 8学級未満しが実施できなかった。	4	4 全国学力調査の国語・算数の正答率が全国平均以上 3 全国学力調査の国語・算数の正答率が全国-5pt以上 2 全国学力調査の国語・算数の正答率が全国-6pt以上 1 全国学力調査の国語・算数の正答率が全国-8pt未満	3	コロナ禍の中で、学力向上を図る取組に教員も高い意識をもち、できる限り取り組むことができた。	タブレット導入による個々の資質能力の向上を期待している。	A	朝学習の取組の質の向上と適切な個別指導の推進を図る。
		家庭学習を充実させ、復習すること習慣付ける。	家庭学習チェック表を活用し、学びの習慣化と質の向上を図る。	4 家庭学習チェックを全12学級で実施した。 3 家庭学習チェックを11学級で実施した。 2 家庭学習チェックを10学級で実施した。 1 家庭学習チェックを9学級以下で実施した。	4	4 家庭学習に9割以上が取り組んだ。 3 家庭学習に8割以上9割未満が取り組んだ。 2 家庭学習に7割以上8割未満が取り組んだ。 1 家庭学習に6割以上7割未満が取り組んだ。	4	家庭学習の取組は十分に定着している。個に応じた課題設定にも取り組んでいる。	個に応じた達成感・成就感を味わわせて欲しい。	A	今後も学級全体への課題、個に応じた課題、自主的な学習を効果的に実施する。
		特別支援教育を充実させ、どの子にも分かりやすい授業を実践する。	市のユニバーサルデザイン(UD)の冊子を活用し、適切な環境づくりをする。	4 全教室で冊子のUDチェックを年11回以上実施した。 3 全教室で冊子のUDチェックを年10回以上実施した。 2 全教室で冊子のUDチェックを年9回以上実施した。 1 全教室で冊子のUDチェックを年8回以上実施した。	3	4 児童評価で「授業が分かりやすい」92%以上 3 児童評価で「授業が分かりやすい」75%以上92%未満。 2 児童評価で「授業が分かりやすい」55%以上75%未満。 1 児童評価で「授業が分かりやすい」55%未満	3	UDチェックについては、教員が主体的に確認し実践できる集団へと高めていきたい。	要支援児童が増加しているが、丁寧に指導していただいている。	B	教員のUDへの意識をさらに高めて、より分かりやすい授業を実践していく。
豊かな心	人権意識を高め、自他を尊重する態度を育てるとともに、集団の一員である自覚と規範意識を育む。	児童の道徳的実践力を高める。	道徳科の特質に即した授業を行うとともに、全教育活動を通して道徳教育を推進する。	4 道徳科の特質に即した授業を全12学級で実施した。 3 道徳科の特質に即した授業を全11学級で実施した。 2 道徳科の特質に即した授業を全10学級で実施した。 1 道徳科の特質に即した授業を全9学級で実施した。	4	4 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価9割以上。 3 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価8割以上。 2 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割以上。 1 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割未満。	3	9割未満であったが、学校全体としては高まりが見られた。次年度は9割超を目指す。	道徳科の推進は児童の将来に有益である。	A	特質に即した道徳科の授業と全教育活動を通じた道徳教育を推進する。
		家庭と連携した道徳教育を推進する。	8月を除く毎月、都道府県教材集を持ち帰らせ、家庭との情報ツールとして活用する。	4 全12学級で実施した。 3 11学級で実施した。 2 10学級で実施した。 1 9学級で実施した。	4	4 保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価9割以上。 3 保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価8割以上。 2 保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価7割以上。 1 保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価7割未満。	3	都教材集を保護者との情報ツールとして活用し、児童を多角的に褒めることができた。	更なる家庭との連携推進をお願いしたい	A	研究協力校の成果を生かして、自己肯定感を高める授業を実践する。
		教員の人権感覚を高め、児童が安心して生活できるようにする。	人権教育プログラムを活用して人権感覚チェックを年3回以上実施する。	4 年3回以上実施した。 3 年2回実施した。 2 年1回実施した。 1 実施できなかった。	4	4 児童による評価で「相談できる先生がいる」90%以上 3 児童による評価で「相談できる先生がいる」75%以上90%未満。 2 児童による評価で「相談できる先生がいる」55%以上75%未満。 1 児童による評価で「相談できる先生がいる」55%未満	4	より信頼を得るため、教師自身の人権感覚を磨くことが重要である。	先生が児童の目標・憧れになって欲しい。	A	全教員が「待つ・聴く・受け止める」ことを心がけ徹底する。
健やかな体	日常的な運動を通して体力を向上させるとともに、健康で安全な生活のために必要な生活習慣や食習慣を身に付けさせる。	日常的な運動を通して体力を向上させる。	元気アップガイドブックを活用して体力向上のための体育的な活動を行う。	4 児童アンケート「意欲的な運動」の肯定的評価9割以上。 3 児童アンケート「意欲的な運動」の肯定的評価8割以上。 2 児童アンケート「意欲的な運動」の肯定的評価7割以上。 1 児童アンケート「意欲的な運動」の肯定的評価7割未満。	3	4 体力調査のA、B判定の児童が6割以上。 3 体力調査のA、B判定の児童が5割以上。 2 体力調査のA、B判定の児童が4割以上。 1 体力調査のA、B判定の児童が4割未満。	2	児童の体力(特に筋力・持久力)の低下が見られた。	元気な体が基盤となり様々な学びができる。	B	元気アップ(体力向上)の取組を継続し、児童の体力向上と低下防止に努める。
		健康で安全な生活のために必要な生活習慣を身に付けさせる。	元気アップガイドブックを活用して健康教育を推進する。	4 健康教育の授業を毎学期・年3回以上実施した。 3 健康教育の授業を年2回実施した。 2 健康教育の授業を年1回実施した。 1 健康教育の授業を実施できなかった。	4	4 グッドモーニング60分の達成率が全児童の9割以上。 3 グッドモーニング60分の達成率が全児童の7割以上9割未満。 2 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割以上7割未満。 1 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割未満。	3	グッドモーニング(GM)60分は発達段階による差が見られ、高学年にとっては9割以上は難しくなっている。	GM60分の継続と同時に挨拶の推進を図って欲しい。	A	家庭との連携を強めながら、今後もGM60分を推進する。
		健康で安全な生活のために必要な食習慣を身に付けさせる。	望ましい食習慣を身に付けるための給食やお弁当(食育)の日の指導を推進する。	4 食育の指導を毎学期・年3回以上実施した。 3 食育の指導を年2回実施した。 2 食育の指導を年1回実施した。 1 食育の指導を実施できなかった。	4	4 食育の目標を達成した児童が9割以上。 3 食育の目標を達成した児童が8割以上。 2 食育の目標を達成した児童が7割以上。 1 食育の目標を達成した児童が7割未満。	3	食育リーダーを中心に、計画的に実施することができた。	学校で食について考え、学ぶことは意義がある。	A	家庭との連携を強めながら、今後も食育を推進する。
輝く未来	地域・家庭との信頼関係を構築するとともに、児童の豊かな人間性や人間関係調整力を高める教育活動を推進する。	学校からの情報発信を積極的に行う。	学校便りの発行を月1回以上、HPの更新を月3回以上行って情報発信を行う。	4 8月を除く11ヶ月で実施できた。 3 8月を除く10ヶ月で実施できた。 2 8月を除く9ヶ月で実施できた。 1 8月を除く8ヶ月で実施できた。	3	4 保護者アンケート「分かりやすい情報発信」の肯定的評価9割以上。 3 保護者アンケート「分かりやすい情報発信」の肯定的評価8割以上。 2 保護者アンケート「分かりやすい情報発信」の肯定的評価7割以上。 1 保護者アンケート「分かりやすい情報発信」の肯定的評価7割未満。	3	来校機会が減り、通信が貴重な情報ツールとなった。HPについても更新回数も増加できた。	家庭との連携の基盤なので今後もよりよく願いたい。	A	ウィズコロナの今、通信やHPを情報発信の重要ツールと捉えて充実を図る。
		外部人材を活用した学習活動を計画的に行う。	地域の特色を生かしたゲストティーチャー(GT)を積極的に招聘する。	4 年2回以上GTを全12学級が招聘した。 3 年2回以上GTを11学級が招聘した。 2 年2回以上GTを10学級が招聘した。 1 年2回以上GTを9学級以下で招聘した。	2	4 児童アンケート「GTとの学習がためになった」の肯定的評価9割以上。 3 児童アンケート「GTとの学習がためになった」の肯定的評価8割以上。 2 児童アンケート「GTとの学習がためになった」の肯定的評価7割以上。 1 児童アンケート「GTとの学習がためになった」の肯定的評価7割未満。	3	コロナ禍ではあるが、可能な限りGTを招聘することができた。	コロナ禍でGTから学べることは貴重なこと。	B	感染防止を徹底しながら、可能な限りGTを招聘した授業を実施する。
		集団の中での自分の役割を理解し、すすんで行動する力を育む。	リーダーシップやフォロワーシップについて理解させ、すすんで実践する児童を育てる。	4 集団の中での役割についての指導を全教員が行った。 3 集団の中での役割についての指導を9割の教員が行った。 2 集団の中での役割についての指導を8割の教員が行った。 1 集団の中での役割についての指導を7割未満の教員が行った。	4	4 児童アンケート「意欲的に活動できた」の肯定的評価9割以上。 3 児童アンケート「意欲的に活動できた」の肯定的評価8割以上。 2 児童アンケート「意欲的に活動できた」の肯定的評価7割以上。 1 児童アンケート「意欲的に活動できた」の肯定的評価7割未満。	3	高学年のリーダーシップ、フォロワーシップに高まりが見られた。	高学年が良いので、学校全体が落ち着いていると感じる。	A	感染防止を徹底し、高学年のリーダーシップ・フォロワーシップを醸成する。